

シンポジウム

利根川近代改修 150年の軌跡と未来

～歴史をたどり、今を見つめ、次の世代へ～

利根川近代改修（直轄工事）から150年の節目を迎え、利根川近代改修の歩みを振り返り、水災害の自分事化をするとともに『流域治水』などの取組を未来につなげていくことを目的としたシンポジウムを開催します。



本シンポジウムは、土木学会CPD認定プログラムです。

令和8年 **2月9日** 月

開場13:00 14:00～17:00 (予定)

さいたま新都心合同庁舎1号館 講堂(2F)

埼玉県さいたま市中央区新都心1-1

入場無料
事前申込み制

アクセス

JR京浜東北線・高崎線・宇都宮線
さいたま新都心駅から 徒歩約5分
JR埼京線 北与野駅から 徒歩約7分

※合同庁舎1号館の1階から入られたら、エスカレーターで2階にお上り下さい。
※合同庁舎1号館の2階から入られたら、館内を右手に進むと受付があります。



主催：国土交通省関東地方整備局

治水対策の温故知新

利根川近代改修
150年の軌跡と未来
～歴史をたどり、今を見つめ、次の世代へ～



明治8(1875)年、オランダ人技師の指導により江戸川で低水工事と呼ばれる主に舟運路を整備するための工事が行われました。この工事は、利根川水系における国による河川工事の先駆けであり、ちょうど150年を迎えます。

その後、全国で大水害が頻発したことを背景に、河川工事は洪水防御を目的とした高水工事へと転換しました。河川改修の着実な進展により、かつての大水害の記憶は薄れつつありますが、近年は気候変動の影響により水災害が激甚化し、私たちは新たな危機に直面しています。

いま、治水対策は明治以来の一大転換期を迎えています。集水域から氾濫域にわたる流域のあらゆる関係者が連携して水災害対策を進める「流域治水」が必要とされています。150周年の節目を迎えた今年、利根川における近代改修の歩みを振り返り、未来に向けた治水のあり方を一緒に考えてみませんか。

ロゴマークについて

全体で大きな花が咲いたように、下から時計回りに利根川、霞ヶ浦(水)、シールドマシン(オレンジ)、渡良瀬遊水地(ライム)、ダム(青)、砂防堰堤(青緑)などをカラフルに配置し、そこにファミリー(繋がり)のイメージを追加し流域全体を表現しました。

プログラム

- 話題提供 「利根川近代改修の歩み(事業報告)」
室永 武司 国土交通省 関東地方整備局 河川部長
- 基調講演 「利根川の治水－これまでの軌跡と未来について－」
清水 義彦 国立研究開発法人 土木研究所
水災害・リスクマネジメント国際センター 研究・研修指導監
- パネルディスカッション 「近代改修150年の節目に考える、
これまでの利根川の歩みと次の世代へのメッセージ」
コーディネーター 清水 義彦 国立研究開発法人 土木研究所
水災害・リスクマネジメント国際センター 研究・研修指導監
パネリスト 鈴木 有 野田市長
糸原 清 千葉県立関宿城博物館 館長
伊藤みゆき 気象予報士・流域治水アンバサダー
室永 武司 国土交通省 関東地方整備局 河川部長

基調講演
コーディネーター

パネリスト

司会



清水義彦

国立研究開発法人 土木研究所
水災害・リスクマネジメント国際センター
研究・研修指導監



鈴木 有

野田市長



糸原 清

千葉県立関宿城博物館
館長



伊藤みゆき

気象予報士
流域治水アンバサダー



室永武司

国土交通省 関東地方整備局
河川部長



澤 麻美

気象予報士
流域治水アンバサダー

参加申し込み方法 インターネットにてお申し込みください

会場の定員に達した際には、Web配信をご利用くださいますようお願いいたします。
ご希望の方は下記アドレスよりフォームの入力をお願いいたします。

<https://e-ve.event-form.jp/event/120212/0ex40hPuGs>

※Web配信をご利用の方には、後日視聴用URLをお送りいたします。

※他団体へCPD単位を登録する場合は、その団体の登録ルールに則って行われます。単位が認定されるかどうかは、直接その団体にお問い合わせください。

QRコードは
こちら▶



お問い合わせ先

利根川近代改修150年シンポジウム参加申込事務局

TEL:03-5577-4041 平日10:00~17:00(土・日・祝及び年末年始12/27~1/4を除く)



本シンポジウムは、土木学会CPD認定プログラムです。

本シンポジウムで取得可能な単位数は2.0です